



代っ子通信

令和7年8月8日

<第21号>

校長 平塚智康

子どもを勇気づける子育て(1) ～聞いて、受け止め、共感する～

近年、だれもが心に抱える不安感を、自分の力で上手に処理したり、コントロールしたりできない子どもたちが増えています。全国的にも、加賀市においても、年々不登校児童が増え、また、集団の中での学習や活動に困難さの見える児童も増えています。

昨年の10月、次年度入学する児童の就学時健診があり、保護者向けの入学説明会を行いました。その際、学校の説明と表題のお話を少しだけしました。

私自身、3人の子育てをしながら、いろんなことで悩みました。親として、子どもたちとどう向き合っていけばよいのか？どう接していけば、子どもたちは優しく、たくましく成長していけるのか？自分の子育てをふり返ると、もっとこうしてやればよかった、ああしてやればよかったと反省ばかりです。

一人の親として、そして教師として、子育てについて、いろいろ悩み、体験し、勉強する中で、子どもたちが温かく、たくましく成長していくために、必要なことや大切なことが少しずつ見えてきました。それは、一言で言うと「子どもたちを勇気づける」ということです。子どもたちは、本来どの子も、温かく、たくましい部分を持っています。それが、行動として表面に表れるには、周りの大人たち（親や教師、地域の大人など）の接し方や声かけがとても重要だということです。逆に言うと、周りの大人たちの接し方や声かけしだいで、子どもたちは、みんな温かく、たくましく成長していけるのだということです。

夏休み特集として、今日から3回に分けて、その時お話ししたことや資料について紹介したいと思います。



<全校縦割り活動>



<1年生と6年生 なかよしプール>

【就学時健診で話したこと】パート1

子どもを勇気づける子育て

「自己肯定感や自己有用感を育み、挫折や失敗にへこたれず、人生を幸せいっぱい生きていける人間に成長してほしい。」そんな願いをもって、日々子どもたちの教育にあたっています。その願いを実現するために、学校（教師）と家庭（保護者）とが、子育てについて共通理解をして、同じベクトルで、子育てにかかわっていけたらよいな、と思っています。

1. 1日1回は子どもに「ありがとう」を言う

なかなか、「ありがとう」と言うことが見つからないこともあるかと思いますが、1日に1回は言う決めておくと何かしら探さなければならなくなります。お手伝いしたときだけ「ありがとう」、だけじゃなくて、存在そのものに「ありがとう」という気持ちでいることが大事で「生きていてくれてありがとう」が究極の気持ちかなと思います。親がそう言っていると、子どもも自然に「ありがとう」が言える子どもになっていきます。また、「うれしい」も使いたい言葉です。ごはんを残さず食べてくれて「うれしい」、学校から元気よく帰ってきてくれて「うれしい」。それから「助かったよ」でもいいです。お手伝いしてくれて「助かったよ」など。・・・「ありがとう」「うれしいよ」「助かったよ」に共通するのは、主語が私です。I（アイ）メッセージと言われます。本校の職員にも、この3つの言葉を、教師が意識して子どもたちに接するよう話しています。ご家庭でも、たくさん使っていただきたい言葉です。

2. 抱きしめて「大好き」と言う

これも同じ場面でできるかもしれません。元気に学校から帰ってきたら、お母さんがお仕事から帰ってきたら、「大好き」「あなたが1番の宝やよ」などと言ってハグしてあげてください。高学年になって、抱きしめるのが難しくなったら、頭をなでなでしてあげたり、背中をさすったりするような優しいスキンシップでもかまいません。それだけで、子どもたちの自己有用感が高まり、情緒は安定します。

3. 子どもの顔を見て、にこっと笑いかける

何かの瞬間に、たとえば一緒にお手伝いしてくれている瞬間とか、出かける前玄関でとか、一緒に風呂に入るときとか、にこっと笑いかけてあげる。子どもは親や教師の笑顔に安心し、心が安定します。

4. うなずきながら話を聞く(5分ぐらい)

子どもが話しかけてきたら、忙しくても5分ぐらい、我慢して話を聞いてあげてください。5分は結構長いです。ここでも、目を見て、「そうか、そうか」とうなずきながら、聞くことが大切です。あとは、「それでなあに?」「うん、わかったよ」「いいよ」などと言ってあげます。

もし、どうしてもその瞬間、話が聞けなくて、あとで、と言った場合は必ずあとで「さっきはなあに」と聞いてほしいのです。そうしないと親への信頼感が下がります。

じゃ、子どもが学校から帰ってきて、何にも話をしようとしない場合、どうするか?この場合は、お母さんの方から「今日学校どうだった?」と聞けばいいと思います。好意的な関心を子どもに向けるのは子育ての基本です。その上で、できるだけ、御用聞きのように関わってみてください。あのサザエさんにでてくる三河屋さんのように。「ちわ、今日は何かありませんか」といって勝手口で用事を聞きに行き、「今日は用がないわ」と答えれば「またお願いします」と言って帰って行く三河屋さんですね。

子どもが1年生に入ると心配なことがいっぱいだと思います。友達と仲良くやっているとか、それを子どもが家に帰ってきてからセールスマンのように、しつこく何回も学校のことを聴くのはやめた方がよいと思います。子どもは言いたいことがあれば言います。もし、心配なら必ず「何かしてほしいことがあったら言ってね、お母さんはいつでもあなたの味方よ。」とっておくのです。

「ふ〜ん、そうなの」と相づちを打って話を聞くだけで、子どもは元気になることが多いです。でも、今日は元気ないなと思ったら、聞く。「何にもない」と答えたらそれは心の中でなんとか、その子なりにそれを乗り越えようとしているのです。何でも先回りして解決してしまうと、依存心の強い子になってしまいます。温かいまなざしで見守って、何かを訴えてきたらそのときはしっかり聞いて応援してあげてほしいです。

そして、変に結果に一喜一憂しない。失敗も成功もいろいろ。どうなってもいつもあなたのことが「大好きやよ」という姿勢や気持ちを伝えて下さい。そうすると自分はどんなときでも、お母さん（お父さん）に認められているという自信や自己肯定感が高まっていきます。

それでもどうしても心配だったり、何か確信のようなものが感じられたりしたら、担任に遠慮なく連絡して下さい。ただ、お母さんが先回りして、何でも子どもの問題を解決してしまうと、その子自身に問題を解決する力が育っていかないので、注意が必要です。